

子どもと感染症

(2022年度版)

— お子さんを感染症から守りましょう —

予防注射を忘れずに受けましょう

園では、皆様の大切なお子さんの健康に十分注意を払っております。しかし、家庭の皆様のご協力がなければ十分な健康管理はできません。感染症についてよく知らずに通園させることは、お子さん自身のからだを痛めるばかりか、大勢のお友達の健康にもかかわることになります。

病気を正しく理解して、健康で元気に通園していただけるように、園で多くみられる感染症についてお知らせします。また、現在、札幌市で実施している予防注射についてもお知らせしますので、お子さんばかりでなく、他の大勢のお友達のためにも、きちんと受けるようにして下さい。

札幌市乳幼児園医協議会

(2022年4月一部改訂)

I. 園で多くみられる感染症について

- ①溶連菌感染症：高熱、のどの痛み、腹痛、嘔吐で始まり、鮮紅色の細かい発疹がほぼ全身に現れ、舌はブツブツができて莓のようになります。発疹が出ない時もあります。合併症に腎炎、リウマチ熱があります。
- ②伝染性膿痂疹（とびひ）：小さな水疱が1～2日で大きくなり、皮が破れて、つゆがあちこちについて広がります。
- ③百日咳：咳が次第に強くなり、特に夜間に激しく、コンコンと長く続いたあとでヒューと音をたてて息を吸い込んだり、吐いたり、特に乳児では呼吸困難となり入院が必要となることもあります。
- ④マイコプラズマ感染症：高熱、激しい咳、頭痛などがあり、重症のときは、胸のレントゲン写真、血液検査などが必要です。
- ⑤麻疹（はしか）：熱、咳、クシャミ、鼻水、流涙、目の充血などが2～3日続いてから、口内の頬粘膜にケシ粒大の白い斑点がパラパラとみられ（コプリック斑）、初めて診断がつきます。その後、赤い発疹が出て、更に高熱が3日間続きます。肺炎、中耳炎を合併することがあります。
- ⑥風疹（三日はしか）：赤い発疹がほぼ全身に出て、目が充血したり、くびのリンパ節がはれたりします。
- ⑦水痘（水ぼうそう）：ポツポツと赤い発疹が体に出て、次第に水疱になり、3～4日で全身にひろがり、ついで先に出たものから順次かさぶたになって治っていきます。
- ⑧流行性耳下腺炎（ムンプス、おたふくかぜ）：耳たぶのすぐ下のあたりがはれて痛がります。片側だけのこともあります。髄膜炎を合併することもあります。
- ⑨インフルエンザ：高熱、頭痛、咳、のどの痛み、四肢の痛みなどがあります。毎年、冬に流行します。
- ⑩突発性発疹：乳幼児に多く、高熱が3日くらい続き、熱が下がると発疹が出て終わります。
- ⑪ウイルス性胃腸炎：冬に多くみられます。急に嘔吐、下痢が始まり、発熱がみられることもあります。便の処理に注意しましょう。

- ⑫手足口病：手のひら、足、口の中に小さい水疱ができ、痛みのために食欲がおちることがあります。
- ⑬伝染性紅斑（りんご病）：顔面頬部に紅斑が左右対称に現れ、また、上下肢の伸側に網状、レース状紅斑が4～10日みられます。軽い発熱がある時もあります。
- ⑭ヘルパンギーナ：のどちんこのまわりに小さい水疱ができ、痛みのために食欲がおちることがあります。高熱が1～3日出ます。
- ⑮咽頭結膜熱（プール熱）：いきなり目が充血し、咽頭痛、高熱が数日続きます。
- ⑯流行性角結膜炎（はやり目）：目が充血し、目やにがひどく出ます。早く眼科の先生にみてもらって下さい。
- ⑰伝染性軟属腫（水いぼ）：最初は1mmくらいの小さな硬い膨らみですが、多数になることもあります。また、真ん中がへこんでアンパンのような形になり、かゆみを伴うことがあります。
- ⑱腸管出血性大腸菌感染症：腹痛、血便、下痢を伴い、ペロ毒素による腎不全、神経症状、出血傾向のため重篤となる場合があります。
- ⑲RSウイルス感染症：咳・鼻水・ぜいぜいなどのふつうの風邪の症状。2歳くらいまでは、呼吸困難をおこすことがあるので、注意が必要です。

※迅速検査の種類によって保険診療で検査ができる年齢が決まっているものがあります。
 (例 RS検査 1歳未満、ヒトメタニューモウイルス検査 6歳未満で肺炎が強く疑われる場合、
 ノロウイルス検査 3歳未満)

II. 予防接種（ワクチン）について

その対象者、実施期間と実施月、各予防接種の間隔について図で示しました。
 (定期接種と任意接種があります。)

※③、⑤～⑨の病気は予防注射を受けることで発病を防ぐことができます。是非、予防注射を受けましょう。
 ※それぞれのワクチンについて疑問のある時は、かかりつけの先生によく相談して下さい。

疾病名	主要病原体	潜伏期	登園のめやす
①溶連菌感染症	A群β溶連菌	2～7日	抗生剤投与開始後1～2日経過し、主要症状が消失するまで
②伝染性膿痂疹（とびひ）	黄色ブドウ球菌	1～2日	皮疹が乾燥しているか、湿潤部位が被覆できる程度のものであること
③百日咳	百日咳菌	1～2週	特有の咳が消失するまで、または5日間の適正な抗菌性物質製剤による治療が終了するまで
④マイコプラズマ感染症	マイコプラズマニューモニエ	1～3週	主要症状が消失するまで
⑤麻疹（はしか）	麻疹ウイルス	9～12日	解熱後3日を経過するまで
⑥風疹（三日はしか）	風疹ウイルス	2～3週	発疹が消失するまで
⑦水痘（水ぼうそう）	水痘・帯状疱疹ウイルス	2～3週	発疹がかさぶたになるまで（但し、手のひら、足のうらは除く）
⑧流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	ムンプスウイルス	2～3週	耳下腺、顎下腺または舌下腺の腫脹が発現した後5日を経過し、かつ全身状態が良好であること
⑨インフルエンザ	インフルエンザウイルスA・B	1～3日	発症後最低5日間かつ解熱した後3日を経過するまで
⑩突発性発疹	ヒトヘルペスウイルス6・7		解熱し、全身状態が良ければ登園可。（発疹があっても良い）
⑪ウイルス性胃腸炎	ロタ、アデノ、ノロウイルスなど	1～3日	下痢が治まり、全身状態が良ければ登園可
⑫手足口病	コクサッキーA10・A16、エンテロウイルス71	3～7日	全身状態が良ければ登園可（発疹があっても良い）
⑬伝染性紅斑（りんご病）	ヒトパルボウイルスB19	1～4週	全身状態が良ければ登園可（発疹があっても良い）
⑭ヘルパンギーナ	コクサッキーウイルス、他のエンテロウイルス	2～5日	解熱するまで
⑮咽頭結膜熱（プール熱）	アデノウイルス（主に3、4型など）	5～7日	主要症状が消失した後、2日を経過するまで
⑯流行性角結膜炎（はやり目）	アデノウイルス（主に8型など）	4～7日	主要症状が消失するまで
⑰伝染性軟属腫（水いぼ）	伝染性軟属腫ウイルス	1～2ヶ月	登園可
⑱腸管出血性大腸菌感染症	病原性大腸菌	3～8日	伝染のおそれがないと認めるまで
⑲RSウイルス感染症	RSウイルス	4～6日	全身状態が良ければ登園可

※ここに記載したのは、あくまでも「めやす」です。診断・治療・登園時期については、かかりつけの先生にご相談下さい。

予防接種対象者年齢表

★予防接種は接種が可能になったら早期に接種しましょう！

☐内は予防接種を受けられる年齢

■内は予防接種を受けるのに最も望ましい年齢

種類と接種回数			実施場所	6	2	3	6	9	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
				週	か	か	か	か	歳	歳	歳	歳	歳	歳	歳	歳	歳	歳	歳	歳	歳
B型肝炎 不活化ワクチン	定期	2回+1回	委託医療機関	生後2か月~		7か月~(注1)															
ロタ 生ワクチン	定期	1価: 2回(注2)	委託医療機関	生後2か月~																	
		5価: 3回(注2)		生後2か月~																	
Hib (インフルエンザ菌b型) 不活化ワクチン	定期	※原則 (初回3回 追加1回)	委託医療機関	生後2か月~		追加接種 1歳以上		5歳未満													
肺炎球菌 (13価結合型) 不活化ワクチン	定期	※原則 (初回3回 追加1回)	委託医療機関	生後2か月~		追加接種 1歳以上															
四種混合(DPT-IPV) ジフテリア 百日咳 破傷風 ポリオ(IPV) 不活化ワクチン	定期	(初回3回 追加1回)	委託医療機関	生後3か月~		4回目 1歳以上		(注3)													
				生後90か月未満																	
BCG 生ワクチン	定期	1回	各区保健センター	生後5~8 か月未満																	
インフルエンザ 不活化ワクチン	任意	毎年2回	医療機関	毎年、10月~11月頃に																	
MR (麻しん風しん混合) 生ワクチン	定期	2回	委託医療機関	生後12~24か月未満						5~7歳のうち、就学前年度の 4/1~3/31(幼稚園の年長児)											
水痘 (みずぼうそう) 生ワクチン	定期	2回	委託医療機関	生後12~36か月未満																	
おたふくかぜ (流行性耳下腺炎) 生ワクチン	任意	1(2)回	医療機関	(注6)						(注5)											
日本脳炎 不活化ワクチン	定期	3回+1回	委託医療機関							3歳		4歳		追加接種 9~12歳							

(注1) B型肝炎ワクチンは1歳までに3回接種が必要。3回目の接種は初回から20~24週あけて打ちます。

(注2) ロタウイルスワクチンには1価ワクチン(ロタリックス®)と5価ワクチン(ロタテック®)があります。いずれのワクチンの場合も初回接種は14週6日までに受けてください。

(注3) 学童期以降の百日咳とポリオに対する免疫を維持するために、日本小児科学会では就学前の3種混合・不活化ポリオワクチンの追加接種を推奨しています。

(注4) 百日咳予防のため日本小児科学会では二種混合ワクチンの代わりに三種混合ワクチンの接種が可能であるとしています。ただしこの場合は任意接種(有料)となります。

(注5) 予防効果を確実にするために2回接種が望ましいです。

(注6) 1歳以上3歳未満で初めて接種する方へは、札幌市から3,000円の補助があります。(委託医療機関の場合)

☐ 生ワクチン ロタウイルスワクチンを除く生ワクチン同士の接種間隔は、中27日以上

■ 不活化ワクチン それ以外のワクチン接種に関しては接種間隔の制限はありません。

★新型コロナウイルス感染症の影響により予防接種を受けられなかった場合には、規定の接種期間を過ぎても定期予防接種として公費助成により接種できる場合がありますので、医療機関にご相談ください。